

『古文書紹介』

— 名言句集 —

六ツ乃観音

紹介者 松村昌勝

『解説』

むつの観音とは、古銭の表・裏を白・黒とし、六枚を縦に並べれば、数の倍乗方式によって、二の六乗は六十四なり、白・黒の六枚で六十四種類の組み合わせができる。この一組を一頁とし、その解説と関連の歌とそれに該当する挿絵を書き添えて、六十四頁に綴った占いの冊子である。

先ず、六枚の寛永通寶を片方の掌の上に置き両掌で包み、おもむろに次の誓いを唱えながら願い事を口ずさみ、六枚の通寶を上下に振る。シヤリ・シヤリ・シヤリ：

「一筋に神の誓いを頼むなり、占正しかれ六ツの観音、黙祷しながら、この誓いを何回となく繰り返し唱えて

いるうちに、両掌の中の通寶が反転する。願いが神に通じた瞬間に止めて六枚の通寶を縦に並べる。寛・永・通・

寶の字のある面を表(白)、字のない方を裏(黒)として、
○○●●○○と出たとすると、この順序の配置の頁を探
す。

そこには、(一)の解説と関連の歌と挿絵が描かれてい
る。

次の「願い」明日は運動会だ！天気は？

●●○○●●と出た。「天にハシゴ」の挿絵と(二)の歌、
あーあ雨か、となる。

今度は、○○●●●●と出た。(三)の歌のとおり、め
天多しめでたしめでたしといった具合。

このように、解説や歌は読めなくても、表情豊かな挿
絵を見て占いの吉凶を判読して楽しむことができた。先
人たちは、この四角穴の寛永通寶六枚を掌にして、観世
音菩薩に何を託していたのだろうか。



○○●●●● 鯉の遊越の不留可如し
鯉の遊をのほるが如し



●○○○○● 登良能尾をふむ可如し
虎の尾を踏むが如し

(二) ○ ● ○ ● ○ ● ○ ● ○ ●

鶴乃子越楚多てまい阿そぶ

可如し末者んじやう能心なり

君可代盤干と勢をか年て祝つ留

ま川毛老木乃若みどり可那

(三) ● ○ ● ○ ● ○ ● ○ ●

の楚む事か那ひ可多し者じ免

に婦ん遍川してよし

阿し起なや身八可ずならぬならい

と天
雲尔可かけ者しお与び奈介れ盤

三
○ ○ ○ ● ○ ○ ●

富貴志さひの身と生れ国土
あんおん子孫者んじやう能心成
めで多しめでたしめでたし
めとてしとて

ありかたやむ川く王ん於んの利生
榮花毛見ち帝子孫者ん

四
● ○ ○ ○ ● ○ ○ ○

た可良千里尔みち多り門越ひらさ
まつ可ごとしされど毛がう満んのこころ
有天おご留事奈可れ
かづかづ能た可良を得多留うれしさと
神尔いのり乃可のふ志留し尔

富貴志ふうきしさひの身と生れ国土くにと

あんおん子孫者んあんのこゝろなりじやう能心成
めで多たしめでたしめでたし

ありが多やむ川く王ん於んの利生りせう

榮花毛見ち帝子孫者ん

じ也やう

ゆへ

た可良千里尔みち多り門越ひらさ

まつ可ごとしされど毛がう満んのこころ

有天おご留事奈可れ

かづかづ能た可良を得多留うれしさと

神尔いのり乃可のふ志留し尔

(五)



志より出づ水の月とらんか如し
心志川可爾して王が身農うへをお毛ふべ
空尔飛可り安れ八水能月毛影な幾可如
常尔是思ふ遍し
志川可身までもたの毛しきかな

飛とり出天水の月を見留が如し
心志川可爾して王が身農うへをお毛ふべ
空尔飛可り安れ八水能月毛影な幾可如し
常尔是思ふ遍し
志川可身までもたの毛しきかな

(六)



秋の野小虫能鳴可如し物每耳
与王りおとろへ天春恵奈留可如

秋の野小虫能鳴可如し物每耳
与王りおとろへ天春恵奈留可如

秋の野のかれがれ尔なる草無良尔
与王り者帝留多虫能古へかな

秋の野のかれがれ尔なる草無良尔
与王り者帝留多虫能古へかな

(七)



船のりて風よをれまてふり如
されども神佛よりのかたされん
たひおのよとたふり如し常ふん
まの川遍きなり

阿りが多也只観音乃利生由へ
ふ多多びおかる阿が留嬉し左

(八)



唯いつ志ん尔佛神をいのりて利あり
本んふの身として信心をす川留事
奈可れかな良ず一度盤利生越受留事
うたがい奈し

者ちすは能濁尔志まぬ古ころ毛て
何可王露を多まと阿左むく

船のりて風尔者那連多留可如し
され登毛神佛いのりをかくれ八ふ多
たびおかる上類可如し常尔志んじん越
堂毛川遍き奈り

阿りが多也只観音乃利生由へ
ふ多多びおかる阿が留嬉し左

唯いつ志ん尔佛神をいのりて利あり
本んふの身として信心をす川留事
奈可れかな良ず一度盤利生越受留事
うたがい奈し

者ちすは能濁尔志まぬ古ころ毛て
何可王露を多まと阿左むく